

3. マーケットからの直行列車の運行と観光まちづくり（滋賀県湖北地域）

～ポイント～

まちづくりと交通利便性の向上とのタイミングの合致

まちづくり事業が目に見える形で現れ始めた時期と、北陸本線坂田～長浜間の直流化による直行列車の運行開始が時期的に重なったことにより、その相乗効果で来訪者が倍増した。まちづくりが話題になった上に、京阪神からの時間が短縮されたほか、本数が増加し、利便性が飛躍的に向上したことが、日帰り観光客の増加に寄与している。

駅から徒歩圏に集積する観光資源

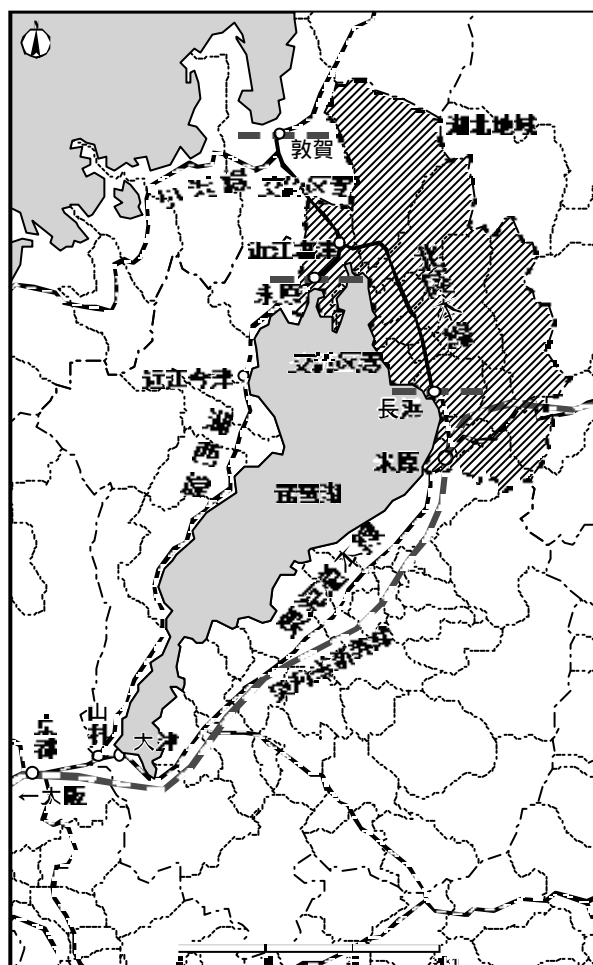
メインの観光資源は駅から徒歩5分であるほか、そこから歩いて10数分の範囲を中心にまちづくりを進めており、2時間程度の滞在に適度な範囲である。メインマーケット（大阪）から新快速を使うと約1時間半であり、格好の日帰り観光先となっている。

1) 滋賀県湖北地域（長浜市ほか）の概要

滋賀県湖北地域は、1市12町（長浜市、山東町、伊吹町、米原町、近江町、浅井町、虎姫町、湖北町、びわ町、高月町、木之本町、余呉町、西浅井町）で構成されており、寺社仏閣、古戦場などの観光地が点在している。

その中でも、長浜市は、滋賀県北東部の琵琶湖畔に位置し、近畿・東海・北陸を結ぶ交通の要衝として発展してきた、湖北地域の中心都市である。市街地を南北に貫く北国街道には、今も古い民家など歴史的建造物が残されている。従来、長浜市への観光は、他の湖北地域と同様、郊外に散在する寺社・仏閣や古戦場などを目的としたものや、長浜駅西側の琵琶湖が中心であったが、「長浜城歴史博物館」の開館した1983年を契機に、市街地に集積する歴史的観光資源を生かしたものとシフトする。さらに、1988年には、実業家、長浜市及び地元企業が一体となって運営する第三セクター「株式会社黒壁」が設立され、翌年には、黒壁銀行の建物が、「黒壁ガラス館」として再生し、「ガラス」を導入したまちづくりが進められる。以降、「芸術版楽市楽座～ART IN NAGAHAMA」などの定期イベントの開催とともに、中心市街地再生の先進事例として脚光を浴び続けている。

湖北地域の位置



現在、琵琶湖を囲むＪＲ鉄道幹線は、琵琶湖線（東海道線京都～米原）北陸本線（米原～近江塩津）及び湖西線（山科～近江塩津）が運行されている。しかし、これらのＪＲ鉄道幹線は、交流区間と直流区間とに分かれているため、京阪神方面からの直流専用電車は、北陸本線長浜駅止まりあるいは、湖西線永原駅止まりとなっている。

２）交通施策の概要

京阪神から長浜までの直行列車の運行

長浜市では、1980年代から北陸本線の直流化運動を行い、1991年に北陸本線坂田～長浜間の直流化によって京阪神から長浜駅までの直行列車が運行開始された。その結果、大阪駅から新快速を使うと、約１時間半となったほか、ダイヤも改正され、直流化当時の運行本数（上り13本、下り15本）から、現在は30本程度運行されている。（長浜駅から米原方面新快速 平日28本、休日30本）

< 概算事業費 >

長浜までの直流化（直行列車の運行）に係る概算費用

* 地元負担（主に県・長浜市）：約7億円

広域周遊観光づくり

北びわこ周遊観光キャンペーン

湖北地域の観光スポットを、鉄道・バス等の公共交通機関を利用して周遊できるよう、年４回（春夏秋冬）のキャンペーンを行っている。

* 「SL北びわこ号」の運行

北陸本線米原～木ノ本間でSLを運行。

* 巡回バスの運行

駅から観光地を巡ってもらうため、主要駅を発着地とする巡回バスを運行（列車のダイヤと接続）している。乗車料金は、１日乗り放題300円で、バス車内では、地元観光ボランティアによるガイドがある。

< 施策実施の経緯 >

長浜市に触発された湖北地域の取り組み

長浜市では来訪者が倍増し、人口も減少から増加に転じたほか、長浜以外の直行列車延伸地域でも人口が減少から増加に転じたため、長浜以北の湖北地域においても、直行列車運行の機運が盛り上がった。実現のためには、まず実績づくりが必要とされたため、1995年から「SL北びわこ号」の運行、1999年から「北びわこ周遊観光キャンペーン」に取り組んでいる。

< 推進体制 >

県及び湖北地域のＪＲ沿線市町村との連携組織による取り組み

1986年に県、湖北地域の市町村による「北陸本線直流化促進期成同盟会」を設立し、京阪神から長浜駅までの直行列車の運行と新快速電車の運転を推進してきた。

季節毎に発行される広域周遊観光
のイベントパンフレット



出所）北びわこ周遊観光キャンペーンパンフレット

1990年に、これまでの「北陸本線直流化促進期成同盟会」を発展的解消し、新たに湖西地域の町村も加えて「琵琶湖環状線促進期成同盟会」を設立した。

3) 観光施策の概要

駅からの徒歩圏域での観光まちづくりの推進

長浜市の観光の目玉である黒壁ガラス館（1991年オープン）は駅から徒歩5分程度である。そこから数百メートルの範囲で、歴史的な街並みの商店街形成事業や新たな観光資源開発等の観光まちづくりが推進されている。

イベントの定期開催

長浜市では、毎年秋のイベントとして「長浜出世まつり」が開催され、そのメインイベントともなる「長浜きもの大園遊会」には、多数の参加者が全国より集まる。

また、1987年より市民手づくりのイベントとして誕生した「長浜芸術版楽市楽座（アート・イン・ナガハマ）」では、2日間の開催期間中、全国から芸術が集まり、町の中で作品を展示、販売、実演する。

4) 交通と観光の相関性

京阪神方面からの直行列車の運行により長浜市の観光入込客数は大幅に増加

長浜市では、1980年代から歴史的な町並みづくりに向けて取り組んでおり、1989年から黒壁スクエアを始めとした事業が目に見える形になり始め、数多くのまちづくり表彰を受けた。その後、新快速を中心に京阪神方面から長浜までの直通電車が、多数運行されるようになり、観光まちづくりと相乗効果をみだし、当市の観光入込客数の大幅な増加に寄与した。

黒壁スクエアの位置

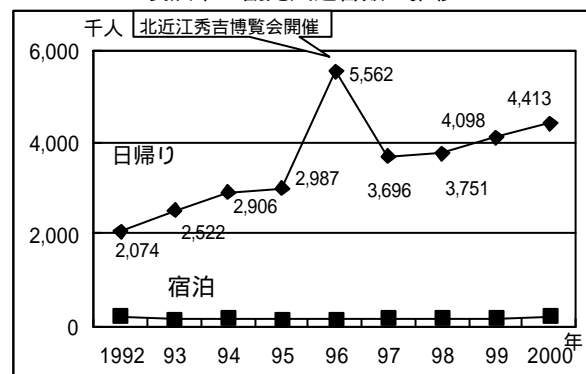


出所) 滋賀県都市地図より作成

黒壁ガラス館



長浜市の観光入込客数の推移



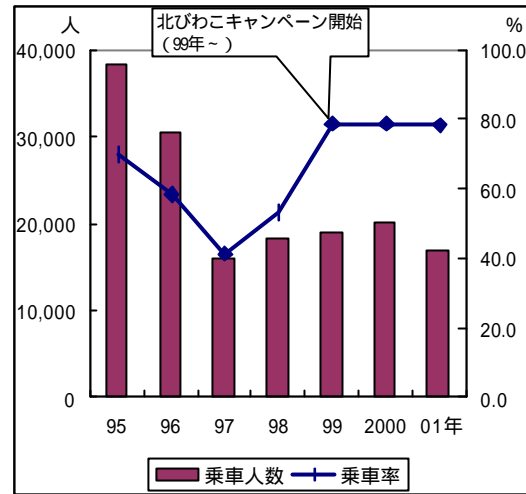
出所) 滋賀県資料より作成

「北びわこ周遊観光キャンペーン」の実施により湖北地域全体の観光入込客数は増加

S L 列車の乗降客数、乗車率は、97年まで減少傾向にあったが、それ以降安定しており、「北びわこ周遊観光キャンペーン」の実施と相乗効果を上げている。

また、湖北地域の観光入込客数は、「北びわこ周遊観光キャンペーン」の実施により、約660万人（1998年）から794万人（2000年）へと増加している。

S L 北びわこ号の乗車人数および乗車率の推移



備考) 95～97年の運行期間は30～32日間/年
98～2001年の運行期間は17～20日間/年
出所) 滋賀県資料より作成

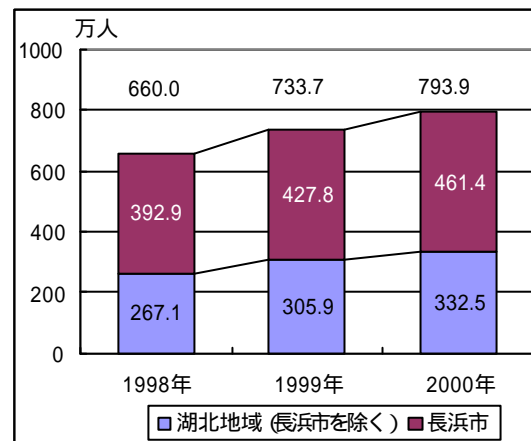
5) 今後の方向性と課題

県北部地域へのアクセスは利便性が確保されていない

琵琶湖を囲むJR鉄道幹線は、交流区間と直流区間とに分かれているため、京阪神方面からの直流専用電車は、北陸本線長浜駅止まりあるいは、湖西線永原駅止まりとなっており、県北部地域へのアクセスは利便性が確保されていない。

京阪神から長浜への直通による沿線への経済波及効果は、年間約63億円であったとの試算結果も出ており、地元では、人口流出の続く長浜以北のJR路線についても直流化を実現したいとしている。

湖北地域の観光入込客数の推移



出所) 「観光客入込客統計調査」より作成

「北びわこ周遊観光キャンペーン」を中心とした取り組みの推進

JR西日本からは、長浜以北の京阪神からの直行列車の運行の条件として、直行列車の運行に伴う工事費用の地元負担、新規土地取得に伴う固定資産税の減免、JR利用者の定着化に向けた利用促進策の継続が挙げられており、「北びわこ周遊観光キャンペーン」を中心とした取り組みの一層の推進が求められている。

担当	滋賀県土木部交通政策課鉄道プロジェクト推進室 長浜市役所 市民主役課 交通政策担当	連絡先	077-528-3684 (電話) 0749-62-4111 (電話)
----	--	-----	--